

V 診療業務概要・活動報告

総合内科

1. 概要

高血圧症、糖尿病、脂質異常症などの生活習慣病は、狭心症や心筋梗塞といった虚血性心疾患の強力な危険因子である。これまで総合内科では、糖尿病を中心に、内臓脂肪の過剰蓄積・耐糖能障害・高血圧症・高中性脂肪血症を併せ持つメタボリックシンドロームや高尿酸血症を含め、積極的に診療を行ってきた。

1996年以来、総合内科では永らく上記の外来診療や糖尿病体験入院などを行ってきたが、2010年の糖尿病・内分泌内科の新設にともない、糖尿病外来や糖尿病教育入院はおもに同科で行われるようになった。それ以降、総合内科では、新規を除く糖尿病、高血圧症、脂質異常症などの外来診療を継続するとともに、原因不明の発熱など専門診療科にすぐには振り分けられない患者の診療を行っている。

総合内科の病床は2012年からなくなっていたが、不明熱の入院精査などのため、2018年4月から3床が復活した。

2018年に始まった新専門医制度において、「総合診療専門医」が基本領域のひとつとなっている。当院は、名古屋大学医学部附属病院総合診療専門医養成プログラム（基幹施設：名古屋大学医学部附属病院総合診療科）および愛知県東三河総合診療科専門研修プログラム（基幹施設：新城市民病院総合診療科）の連携施設となっており、総合診療専門医を育成する使命も帯びている。2020年度には1名の専攻医が当院で研修を行った。

（部長 稲垣 大輔）

2. 活動報告

（1）患者状況

年間外来患者数	1,400人	年間外来新患者数	1,593人
年間入院患者数	4,766人	年間入院新患者数	80人

講演（医局）

（総合内科）

1	稲垣 大輔,「地域がん診療連携拠点病院におけるACP普及の取り組み」「緩和ケアチーム・ACP事例」,豊橋・生と死を考える会,豊橋市,2020/8/22
---	---